

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・言語文化（森・イ）	単位数	1	担当者	神田・杉村・島川
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1. 教科書・副教材

新編言語文化（東京書籍） 新訂国語図説五訂版（京都書房） 常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）

2. 科目の目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言葉がもつ価値への認識を深める。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①随筆『美しい』ということ	①筆者の体験と感性に寄り添いながら、「美しい」ということについて考えを深める。	18	①②
	5月	②古文「うつくしきもの」（枕草子）	②作品に表れた作者の考えを、叙述を基に考える。また、作品の内容を踏まえて、自分の物の見方、考え方を深める。		
	6月				
	7月	③敬語の使い方	③基本的な敬語の使い方を理解し、使えるようになる。		③④
	8月				
9月	④小説「雨漏りの音」	④時間の経過に注意しながら本文を読み、登場人物の心情について考える。			
後 期	10月	⑤正しい書き言葉の使い方、小論文の書き方	⑤正しい書き言葉の使い方や論の構成の仕方を学び、小論文の書き方を習得する	17	⑤⑥
	11月	⑥漢文「借虎威」（戦国策）	⑥漢文の基本的ななままりを振り返りながら、漢文の世界に親しむ。また、身近な故事成語の理解を深める。		
	12月				
	1月	⑦小説「夢十夜」	⑦表現に即して小説を丁寧に読み、そこに展開する独自の世界を味わう。		⑦⑧
	2月	⑧古文「木曾の最期」（平家物語）	⑧想像力を働かせながら、物語の世界を読み味わう。		
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。
- ・授業での学習活動には集中して読んだり考えたりして、積極的に取り組みましょう。
- ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。
- ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識をもちましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・論理国語（普・理）	単位数	2	担当者	島川
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

論理国語（筑摩書房）	新訂国語図説（京都書房）	核心漢字 2500+語彙 1000（尚文出版）
改訂版現駄文キーワード読解（Z会）	近現代文学コレクション（第一学習社）	

2. 科目の目標

<p>・言葉の使い方、読解の仕方を学ぶことで、日常のことがらや社会問題の分析の仕方を修得し、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、自分の言葉で考えたことを、様々な方法で表現する方法を学ぶ。</p>
--

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①長田弘「アイオワの玉葱」	①言葉がものの見方や考え方を規定しているという考え方を知り、他者理解の一つの観点を身につける。	3 5	①②③④
	5月	②河野哲也「ファッションの現象学」 ③川添愛「本当は怖い「前提」の話」	②③文章中の具体例の使われ方や役割を理解し、主張の導き方を学ぶ。対比的に読み取ることで主張を読み取る。		
	6月	④岸政彦「沖縄戦を聞く」	④戦争に関する文章を読み筆者の戦争体験者への態度を知ること、自身の平和への意識を高めるとともに、態度を再考する。		⑤⑥
	7月	⑤吉川浩満「人新成における人間」	⑤⑥時代や価値観に伴って言葉が変化することを理解し、ことばが持つ社会的な役割を考えるとともに、自分の用いる言葉と社会情勢や問題とのつながりを考える。		
	8月	⑥川島慶子「変貌する聖女」			
	9月				
後期	10月	⑦今福龍太「ファンタジーワールドの誕生」	⑦⑧⑨異文化の人、人間ではないもの、マイノリティといった多様な視点を本文の読解を通して知る。情報を受け取る際の注意点、情報を発信する際の注意点を学ぶ。	3 5	⑦⑧⑨
	11月	⑧日高敏隆「生物の作る環境」			
	12月	⑨湯浅誠「貧困は自己責任なのか」	⑩民主主義と権力について筆者の考えを読んで自ら考え、社会問題についての関心を高める。またその問題点について調べ、まとめる。		⑩⑪
	1月	⑩杉田敦「権力とは何か」			
	2月	⑪柴田邦臣「ビッグデータ時代の「生」の技法」	⑪科学技術倫理および社会的弱者への接し方についての文章を読み、今後の生き方や他者とのかかわり方を考える。		
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論理的文章や実用的文章・資料を正しく読み解き、理解・活用するために必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的文章の読解を通して、社会の問題や様々なテーマに関するものの見方・考え方を養う。 問題やテーマに関して自分の意見を持ち、それを他者の意見を尊重しながら主張することができるようになる。また、問題の解決の糸口を探すための訓練をする。	定期テスト、言語活動への取り組みやそこでの成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	言語活動への取り組み、出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に本文の主旨（筆者の意図）を理解する習慣をつけましょう。 ・文章の構成を意識し、段落ごとの役割を理解するよう努めましょう。 ・辞書や漢字練習帳を繰り返し開いて、語彙力定着に努めましょう。 ・普段から様々な文章に親しむと共に、常に身の回りの事象に対して興味関心を持って過ごすよう心がけましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・論理国語（森・イ）	単位数	2	担当者	神田・杉村・島川
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1. 教科書・副教材

新編論理国語（東京書籍） 新訂国語図説五訂版（京都書房） 常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）

2. 科目の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①評論「対話とは何か」	①対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方について考える。	35	①②③
	5月	②評論『『ふしぎ』ということ』	②挙げられている話題を関連づけて読み取り、主題を的確につかむ。		
	6月	③論理の力「論理とは何か」 つなげる力／論証する力	③接続表現に注意し、論理の展開を捉える。 根拠を示して考えを主張してみる。		
	7月	④評論「少女たちの『ひろしま』」	④戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える。		④⑤
	8月	⑤評論「学ぶことと人間の知恵」	⑤文のつながりに注目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。		
後期	10月	⑥論理の力「論理とは何か」 要約する力／質問する力	⑥要約を通し本文の中心的主張を読み取る。 きちんと「分かるうとする」姿勢を持つ。	35	⑥⑦
	11月	⑦評論「弱肉強食は自然の摂理か」	⑦筆者の提示する問いや根拠に注意しながら、文章の論理的展開を的確に捉える。		
	12月	⑧評論「思考の肺活量」	⑧表現に注意して評論を読み、提示された問題を的確に把握する。		⑧⑨⑩
	1月	⑨評論「はじめに『言葉』がある」	⑨筆者の体験を手がかりに、働くことと言葉との関わりについて考える。		
	2月	⑩言葉の扉 慣用句の意味／カタカナ語	⑩文章の読解やより豊かな表現の為に必要な語彙を増やす。		
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論証や学習のために必要な幅広い知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。
- ・授業での学習活動では集中して読んだり考えたりして、積極的に取り組みましょう。
- ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。
- ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識を持ちましょう。

R6年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・古典探究（普・理）	単位数	2	担当者	杉村・丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

高等学校古典探究 古文編・漢文編（第一学習社）、新訂国語図説（京都書房）
 解釈のための 必携 古典文法（啓隆社）、Key&Point 古文単語 330（いっぴな書店）
 新明説漢文（尚文出版）、漢文語彙字典（尚文出版）

2. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3. 学習の計画

○：古文分野 ●：漢文分野

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	① 故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」「嬰逆鱗」「知音」	① 漢文の読解に慣れ、訓読上の決まりを正しく理解する。簡潔な文章に触れ、故事成語の由来を正しく理解する。	35	①①
	5月	① 『伊勢物語』 「渚の院」「小野の雪」	② 敬語の単語・用法を習得し、を身に付ける。話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取る。歌物語という文章の種類を踏まえ、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。		
	6月				
	7月	② 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」	③ 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取る。長めの文章を読むことで、古文に親しむと共に、敬語の使い方に慣れる。		
	8月				②②
	9月	② 名家の文章 『雑説』	② 文章の表現・比喻・構成の巧みさ、論の展開の仕方、思想家の思想の特徴を理解する。		
後期	10月	③ 『大鏡』 「弓争ひ」「花山天皇の出家」	③ 歴史物語という史実に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。語り手や語られる場と内容を把握し、語り手の伝えたい主題を理解する。引き続き敬語の用法に慣れる。	35	③③
	11月				
	12月	③ 『史記』 「鴻門之会」「四面楚歌」	③ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深める。作品に表れるものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする。また長文を、話の筋を追いながら読解する力を養う。		
	1月				
	2月	④ 『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫の君」	④ 物語を構成する、主人公と諸人物の人間関係の諸相を理解し、敬語の定着をはかる。		
	3月				③④

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れ、初見の文章でもある程度の速さで読解できるように努めましょう。
- ・ 必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。
- ・ 授業時の小テストや課題には真剣に取り組み、解答解説を使い、苦手部分の克服に努めましょう。